

# デーリー東北 2019年(令和元年)10月26日(土曜日)(2)

## 人口減、インフラ老朽化 産学官と技術士 地域の課題共有

青森でセミナー

地域産学官と技術士との合同セミナー(日本技術士会主催)が25日、青森市で開かれた。東北を中心に関係者約200人が参加し、人口減少社会やインフラの老朽化などの課題を解決する技術の在り方などについて、専門家らの講演を通じて、理解を深めた。

全国持ち回りで開かれ、青森県での開催は14年ぶり。同会の大熊正信副会長はあいさつで、防災や人口減少などの問題について「技術士が専門分野の枠を超えて連携を強めるとともに、人材教育にも力を入れなければならない」と強調した。

八戸工業大の長谷川明学長が基調講演。自身を中心となり、産官学連携で老朽化した橋の調査や橋の長寿命化の研究に当たる「青い森の橋ネットワーク」の活動を紹介した。

「青い森の橋ネットワーク」の取り組みを紹介する、八戸工業大の長谷川明学長。25日、青森市



長谷川氏は「(インフラの)維持、管理には、新しい技術の投入だけでなく、製造当時の技術も知る必要

がある」と説明。「学生らに対し、今は使われていない技術も、短時間でコンパクトに教える態勢づくりが課題だ」と呼び掛けた。

このほか、県産業技術センター・農林総合研究所の境谷栄二(農林)農産ICT開発部長による、県産ブランド米「青天の霹靂」誕生までの経緯や、人工衛星を活用した生産支援についての講演なども行われた。(山内淳二)